

「言論の空洞」を埋める日本の新型ネットメディア」

法学部政治学科 2年 森原彩子

経済学部 1年 吉田涼子

理工学部 1年 坂井梨乃

日本のジャーナリズムはいま、岐路に立っている。変わりゆく時代に適応しようと奮闘しながらも紙媒体は着実に衰退をはじめ、日本新聞協会調べの新聞流通量はここ 10 年で、5200 万部から 4300 万部に減少している。これに伴い、取材資金の削減のみならず、廃刊に追い込まれる新聞社も相次ぐ。民主主義を堅持するには、権力の監視者、情報提供者、公共圏の推進主体としての報道機関の役割が不可欠であるがゆえに、紙媒体の担ってきた役割は、後継者の躍進に託されようとしている。後継者、それは急速な技術革新によって生まれたネットメディアである。しかし、ネットメディアによるオンラインニュースへの移行は一つの疑問をもたらす。果たしてネットメディアはこれまで紙媒体が担ってきた「第四の権力」ともいわれるジャーナリズム機能、つまり出来事の分析によって公衆に議論をもたらす機能を担いきれるのだろうか、という疑問である。

言論プラットフォーム・アゴラが池田信夫氏によって設立されたのは 2009 年のことである。新田氏は「当時、オンラインメディアは新聞社が運営するサイトと、2 チャンネルに代表される匿名の掲示板に二極化していました」と振り返る。アゴラはそれ以来、政治家や専門家による意見を集約した「言論プラットフォーム」を提供することを目指してきた。新田氏は、「専門家による分析は予期せぬ“すっぱ抜き”につながることもあるんですよ」と胸を張る。最近のアゴラといえど何と云っても、野党・民進党党首、蓮舫氏の二重国籍疑惑をいち早く掘り起こすことに成功した。この記事を見たネットユーザーは疑惑にさらなる証拠を提示し、蓮舫氏の支持率は大きく低下した。レガシーメディアが自主規制してきた選挙時期の報道において、ネットメディアがもつ影響力の大きさが反映されている、と新田氏は



語る。そうしたリアルタイムの報道においても、物事が真実であるかをチェック（いわゆるファクトチェック）し、論理的な報道をする責任は免れない。米大統領選に際し Politifact に代表されるファクトチェック機関が脚光を浴びたように、即時的なファクトチェック機能はデータ分析と並んだネットメディアの強みである、と新田氏は続けた。

LINE 株式会社が運営するオンラインニュースサイトである **BLOGOS** は、専門家や政治家など 1000 人以上によるブログを集約している。編集部の永田正行氏は **BLOGOS** の目的について、ニュースの丹念な解説や分析を読者に提供することである、とする。これはコストカットに直面する紙媒体が、いわゆるストレートニュースに重点を置かざるを得ない状況への対抗措置でもある。ネットユーザーは年齢が若い傾向にあるだけでなく、多くの読者はニュースの内容を完全に解釈しきれていないことから、見出しの背後にある文脈や沿革をカバーすることは特に重要だという。これは新田氏も指摘していた点であり、アゴラの設立者である池田信夫氏は、「タックスヘイブンってなに？」や「憲法は改正できるの？」といった基本的な疑問に答える「こども版アゴラ」を連載している。このように、ふと疑問に思った時の検索にこたえる機能は、ネットメディアが紙媒体に勝る点だろう。永田氏はさらに、オンラインでの議論を促すプラットフォームの提供に焦点をあてる。**BLOGOS** の「議論」コーナーには編集チームが提起する、「天皇の生前退位をどう思うか」や「広島へのオバマの訪問をどう思うか」といった論点が挙げられ、ユーザーは自由にこれらに答えることで議論を展開できる。また、参加している政治家から「**BLOGOS** に掲載された〇〇議員のブログを読んで、反論を書いた」「〇〇氏の書いていることはもっともなので、自分も補足してみた」などの声をかけられることもあり、こうした点においても、デジタル媒体ならではの双方向性が生かされているようだ。これらの機能はネットメディア特有の強みでもあるが、永田氏は「行き過ぎたコメントを制限することとユーザーの言論の自由を確保することは紙一重」とも語る。

両氏へのインタビューにおいて共通していたのは、ネットメディアにとって最大の懸念点が資金調達である、という見方である。ネットメディアの主な収入はページビューと広告から来るもので、単純なクリック数に焦点をあてれば、最も収益につながるのはエンターテインメント記事だ。アゴラの新田氏は、アメリカなどと比べて慈善や寄付の文化の浅い日本においては、ジャーナリストが民間からの援助を受けることが難しい、と頭を悩ます。やはり良質でも資金が必要なジャーナリズムの存続は難しいのだろうか。それでも永田氏は、「ネットメディアの業界内でも、公共の利益を考えた入念な取材と事実確認に基づく記事を書くことへの責任意識はある」と見ている。永田氏も新田氏も、昨年日本版をリリースした **Buzzfeed** や早稲田大学のジャーナリズム研究所に言及し、ネットメディアによる調査報道が活発化しつつあることを示唆した。

新田氏はここ数年のメディア業界の変動を「幕末」に例える。伝統的な紙媒体は崩壊しつつある封建制度の上に立つ徳川将軍、新たに台頭するネットメディアは変革をもたらそうと孤軍奮闘する坂本龍馬だという。坂本龍馬の試みは旧体制の崩壊を促し、明治維新は新たな時代の幕を開けた。アゴラや **BLOGOS** に続いて、業界全体でジャーナリズムの重要性を

再認識する動きが生まれるのかどうか、注視していきたい。